

2026年2月1日

2025年度 第3回研修会 報告

学術部 近藤 賢一

2026年1月24日（土）14時から17時30分にて2025年度第3回研修会を成田記念病院3階大会議室で開催しました。参加者数は63名（会員55名、非会員8名）でした。研修会のテーマを「明日から実践！救急撮影」として、若手セッション、メーカー講演、エキスパートセッションの3部構成で行いました。

若手セッションでは入職3～4年目の4施設の診療放射線技師が診療時間外の時間帯で経験をした難しい撮影依頼や造影CT検査でのトラブルに対してどのような対応をしたのか、その経験をもとに現在はどうな改善をしているかの発表がありました。メーカー講演ではHybrid ER Systemを提供している2社から病院施設への装置導入事例、それぞれの装置の特徴が紹介されました。エキスパートセッションでは2施設の救急撮影部門責任者の診療放射線技師が新病院開設時に救急撮影室の設計、レイアウト、患者動線について自分たちの意見が通り、旧病院よりいかに改善がみられたのかの発表がありました。最後の発表はIVR認定技師より救急IVRでの真髓（物事の最も深く本質的な部分）についての発表がありました。

診療時間外での撮影業務は救急患者の状態を的確に把握をし、オーダーコメントや様々な患者情報、ラボデータをもとに、短時間で撮影体位、撮影プロトコル（撮影範囲、撮影条件）、造影剤注入条件などを決める必要があります。若手セッションでは技師歴が短く、経験が少ない中、時間的切迫感がある状況でいかに診療に役立つ画像を提供しようとしたかが発表されました。エキスパートセッションのなかでも、緊張感のある場面でいかに若手の診療放射線技師に「心理的安全性」を持てるような職場環境作りについての発表もあり、とても参考になりました。救急IVRでの真髓では、迅速かつ効果的な治療を行うために診療放射線技師がチームの一員として一緒に戦略を考えること、またそれに必要な知識が発表されました。

今回は救急撮影において若手から部門責任者、管理職の方まで幅広いキャリアに向けた研修会になりましたが、大変興味深い内容の発表であったとの感想が多く参加者から聞かれました。